

## 日本包装管理士会選定「2023年包装界・10大ニュース」

COVID-19が5類に移行してコロナ禍から解放され、観光需要の回復をはじめとして経済活動が活発になりました。その一方で、円安は継続し、輸入物価の上昇でデフレからインフレへの歴史的な転換期と言われています。包装業界へもAI技術や環境負荷への対応が広く浸透し、話題になりました。

### 1. G7 広島サミットで世界にコミット “ボトル to ボトル”リサイクルキャンペーン

2023年のG7広島サミットの期間中に実施された「ボトル to ボトル」リサイクルの啓発キャンペーンは、飲料大手2社の異例な共同広告として報道各社は伝えた。このキャンペーンは水平リサイクルの環境への取り組みを、G7サミットの機会を逃さず日本国内だけでなく世界にコミットメントする役割を果たした。

### 2. 生成AI、分野横断的な変革と革新の波

2022年末に誕生した対話型AIサービスは、2023年においては多岐にわたる分野で革新的な変化をもたらした。社内の文書作成からメール作業の効率化、開発時のコミュニケーションの活性化など、様々な領域で大いなる貢献があった。包装分野ではM社が対話型デザイン生成AIを導入し、購買欲を刺激するデザイン開発に成功した。また、外装用段ボール破損の判定基準共有化にもAIが活用され、飲料業界・流通業界での統一적アプローチ促進が見られた。

### 3. 段ボール印刷用インキが18色に集約

現在段ボール製造時に使用しているインキは、全国段ボール工業組合連合会、全日本紙器段ボール箱工業組合連合会、および印刷インキ工業会の3組織にて定めた標準色（18色）と補整色（32色）で運用され、一部の商品に限り特練色が使用されている。2024年4月1日より段ボール製造時に使用するインキを標準色18色に集約することで、廃棄ロスインキの低減や二酸化炭素排出量の削減など環境負荷に対する効果が期待されている。

### 4. PET ボトル直接印刷のリサイクル対応技術を開発

PET ボトルリサイクル推進協議会発行のガイドラインでは、「ボトル本体への直接印刷は行わない」とされている。K社はF社の剥離インクと独自技術を駆使し、リサイクル時の品質低下の問題を解決した。ペットボトルへ直接デジタル印刷することで、シュリンクラベルの剥がし作業が不要となり、消費者の手間が大幅に軽減される。また、この技術により温室効果ガス排出も約84%削減を見込む。K社は協議会への申請を完了し、今後は自社に留めず技術を広く展開する方針を発表した。

### 5. 循環型社会への一歩 詰め替え用パックのリサイクル推進と企業協力

日用品メーカーが詰め替え用フィルム容器のリサイクル推進を図り、企業間協力を進めている。フィルム容器が異なる素材からなるためリサイクルが難しい問題に対処し、

利用可能なリサイクル材料・容器を設計した。また他の日用品メーカーに容器の素材情報の共有を呼びかけ、消費者・行政・流通との協力を通じて分別回収の仕組みを構築中である。業界ライバルが協力して課題解決を目指すこの取り組みは、循環型社会の構築に向けた重要な一歩といえる。

#### 6. 包装・容器出荷額、14年ぶりの6兆円台回復

(公社)日本包装技術協会は22年の包装産業出荷統計を発表した。包装・容器出荷金額は前年比6.9%増の6兆788億円で08年以来14年ぶりに6兆円台に回復した。一方、包装・容器出荷数量は0.2%減の1,921万トンだった。出荷数量は前年割れしたが、原材料・エネルギー価格の高騰、急速な円安などが大きく影響し、前年より約3,900億円の大幅な増加になっている。

#### 7. 使用済みコピー用紙で高性能緩衝材

S社の開発した紙系緩衝材は、社内の古紙回収システムで収集した使用済みコピー用紙を原料とし、独自技術により水をほとんど使わずに繊維化を行い、緩衝材として最適に成形することで衝撃を吸収する効果を確保した。EPS緩衝材と同等の衝撃吸収性を持ち、廃棄時は段ボールと共に全体を古紙としてリサイクルすることが可能で、「2023日本パッケージングコンテスト」において、ジャパンスター賞を受賞した。

#### 8. 医薬品業界においても、環境負荷低減への動きが強まる

ある大手医薬品メーカーでPTPシートの回収プログラムが始動した。他企業との連携の下、横浜市内で地域ぐるみの回収実験を実施し、それ以外の企業でもPTPシート廃材のリサイクル化の動きが進展している。一方で、バイオマスやリサイクル材を一次包装として採用し、また製造・提供する企業も現れる等、バイオマス及びリサイクル材を用いた包装を採用する企業が増加している。医薬品企業や関連企業において、多種多様な方向から環境負荷低減への取り組みが加速している。

#### 9. 有田俊雄氏が日本人初の「生涯包装功労賞」を受賞

日本包装管理士会の第7代会長を務められた有田俊雄氏(11期)が、世界包装機構(WPO:World Packaging Organisation)が認定する2023年の「生涯包装功労賞」(LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD IN PACKAGING 2023)を受賞した。この賞は日本人の受賞は初めてで、2023年のインターパック会場で表彰された。約50年にわたる日本と海外の包装団体との交流をはじめ、世界の包装業界に多大の貢献をした。

#### 10. 各種展示会の開催が復活。暮らしの包装商品展 2023も開催

今年もJAPAN PACKを始め、FOOMA、インターフェックス、高機能材Week(SUSMA展他)等、各種展示会が開催された。各展示会の出展社数及び来場者数が復活・増加し、改めて“コロナ後の包装業界”を印象付けた。また「暮らしの包装商品展 2023」が、10月26日・27日の両日、東京丸の内「KITTE」で開催され、「2023グッドパッケージング展・2023年(第47回)木下賞受賞作品展」が併催された。